

早生品種の収穫前管理

お盆を過ぎると「さんさ」「つがる」の早生品種は、着色管理が始まります。この時期はまだ、気温が高く着色し難いので、徒長枝切りや枝つりをていねいに行って、果面に直接光が当たるようにします。葉摘みが早過ぎたり、強すぎたりすると糖度が上がらず、着色が劣って食味の低下につながるので注意します。

葉摘みの時期と程度は、日当たりのよい枝の果実が着色し始める8月下旬ごろから、玉回しと併せて果実に密着している果叢（そう）葉を中心に軽に行います。収穫が近づくにつれて、果実に光が十分当たるように玉回しと周辺の葉を摘み取り、新梢の強い摘葉は避けます。

また、日焼けの発生を防ぐには、果実温度の上がる日中に行います。収穫は糖度・硬度を守って、過熟や果実が軟化しないうちに行ってください。



【 さんさ 】

写真：岩手県農業研究センター 果樹研究室より